

佐世保市民展と

シャガール展

第50回記念 佐世保市民展

昭和43年に市と佐世保美術振興会の共催で第1回が開催され、以来、市民の文化芸術の祭典として多くの人に親しまれてきた「佐世保市民展」。第50回を迎えた今回は洋画、書、日本画、デザイン、写真、彫刻・工芸の6部門に、高校生から高齢者まで幅広い年齢層の皆さんから280点の力作が出品され、5月17日から28日まで開催されました。今回はその作品の中から市長賞を受賞された皆さんとその作品の見どころなどを紹介します。読者の皆さんも来年はぜひ作品づくりに挑戦してみませんか。

第50回記念 佐世保市民展 佐世保市長賞受賞作品

①制作期間 ②作品に対する思い ③作品の見どころ ④市民展への思い

洋画

再生の海 吉岡信子さん

- ①約2カ月
- ②5年ほど前に両親の故郷、佐賀県鹿島市を訪れたときに広大な干潟が目には映りました。いとこたちは有明海でノリ養殖に従事していますが、以前と違い環境の変化などで大変な苦勞をしています。今回の作品はそのような思いを重ね合わせて、いつの日か昔のように人々へ恩恵をもたらす豊かな海になるように気持ちを込めて描きました。
- ③遠景のノリ養殖支柱(コンポーズ)に一番苦勞しました。
- ④家族への「エール」です。今回の応募を最後にしようと決め、丹精込めて描きました。予想もしなかった「市長賞」をいただき、本当に驚いています。ありがとうございました。



書

粘葉本和漢朗詠集 山本郁子さん

- ①1カ月
- ②ご指導くださる先生に、日頃から臨書の大切さを教えていただいております。今回は和漢朗詠の臨書作品をぜひ制作してみたいという思いで作品作りに励みました。
- ③臨書作品を6枚作成していますが、1枚書くのに約1時間かけて仕上げています。ご指導いただいた先生、応援してくれた家族や友人の励ましのおかげで、より良い作品ができたので、その思いが少しでも伝われば良いと思っています。
- ④昨年は親の看病のため、書道活動ができない1年でしたが、ことしはいろいろと挑戦していこうとの思いで応募しました。思いがけず受賞できたことを感謝しています。ありがとうございました。



第50回記念佐世保市民展の入賞作品の一部



市政80周年を記念し、市民の芸術・文化振興の拠点としての役割を担うため、昭和58年4月に開館した佐世保市博物館島瀬美術センター。以来、各種展覧会の会場提供や自主企画展を積極的に開催し、多くの皆さんに親しまれています。今回の特集では、特に同センターで毎年開催している市民の芸術文化の祭典「佐世保市民展」が第50回を迎えたことを記念し、全6部門の市長賞受賞作品などを紹介するとともに、7月15日から一挙に279点もの版画作品を九州で初公開する「シャガール展」の概要についてお知らせします。

重ね三葉紋偏壺 ^{へんこ} 松尾喬 ^{たかし} さん

- ① 4カ月
- ② 園芸を趣味にしている私にとって斑入り植物の葉などは特に美しく感じます。題名の「重ね三葉紋偏壺」はそのような美しさを陶面に表現してみたく作成しました。葉と葉脈は多少デフォルメしていますが、虹色の色彩とそのグラデーションで美しく仕上げました。
- ③ デフォルメされた植物の葉と葉脈とを、色彩とグラデーション手法によって仕上げた陶芸の妙技を見ていただきたいと思っています。
- ④ 今回で3度目ですが、陶芸を志す佐世保市民として展に出品することは半ば義務ではないかと思っています。今後とも特に彫刻・工芸部門は応募者が少ないので勧誘等に協力したいと思っています。



①制作期間 ②作品に対する思い ③作品の見どころ ④市民展への思い

森と水湖 脇山睦子 ^{よりこ} さん

- ① 1カ月
- ② 長い間勉強を重ねてきて良かったと痛感しております。本当にありがとうございました。
- ③ 水墨画は基本的に白黒で表現する魅力があります。ぼかし、清楚、淡白、幽玄の世界、簡素の美を感じていただきたいと思います。
- ④ 何回もお話はあったのですが、今回は先生方に後押しされ、思い切って出品いたしました。

ランタン日和 藤村順子 ^{よりこ} さん

- ① 2週間
- ② 「長崎ランタンフェスティバル」に出掛けたときの1枚です。長崎独特の異国情緒が味わえるので、何度か訪れました。若い親と子ではなく、祖父と孫との組み合わせが同世代の者としてほほ笑ましく、ほのぼのとした光景に見えたのでシャッターを切りました。
- ③ 幼い孫娘のゆったりとした歩み、それを見守りながら孫との時間を共有できる喜びに満ちた優しい祖父の表情。そして、背景に眼鏡橋とランタンが映り込んでいるので長崎ランタンの雰囲気が出て、少し華やかになったのではないのでしょうか。
- ④ 50回記念ということで、改めて長い間市民展を支えてくださった方々に感謝しつつ、応募しました。節目の年に他の多くの優れた作品の中から選んでいただき、光栄に思います。





「サーカス」1967年刊行 リトグラフ Mourlot511 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017, Chagall ® E2602

生誕130周年記念 シャガール展

Marc Chagall Exhibition Japan 2017 in Sasebo City Museum Shimanose Art Center

— 版画が奏でる愛と平和 —

7月15日(土)～9月3日(日)
島瀬美術センター

マルク・シャガールが制作した8つの版画シリーズの展覧会を本市で初開催します。

シャガールはユダヤ人としてロシア西方、ヴェラルーシに生まれ、フランスに移って制作活動をした後、1941年、アメリカへ亡命、7年後にはフランスに戻り、同地にて97歳で亡くなった20世紀最大の画家です。今回、フランス、アメリカなど国内外のコレクターから借用し、279点もの版画作品を公開するのは九州で初めてのことで。

巨匠は、ふるさとの人々や風景を主題とし、人間や動物たち、中でも愛する人との永遠の愛を賛美する作品を描きました。本展では、展示だけにとどまらず、ワークショップやミュージアム・コンサートなどの催しを行うことで楽しい文化事業を行います。

シャガールの色彩豊かな版画作品により、詩情あふれる版画の魅力、そして、シャガールが奏でる愛と平和を感じてください。

開館時間

10:00～18:00(入館は17:30まで)

※金・土曜、祝前日、8月13日(日)・14日(月)、
9月3日(日)は20:00まで(入館は19:30まで)

観覧料

一般800円(600円)、大学生・高校生600円(400円)

中学生400円(200円)、小学生以下無料

※()は前売り、20人以上の団体料金。

※障害者手帳を持つ人と介護者1人無料。



「出エジプト記」より
「モーゼはかくして、民の長老
たちを呼び集め、神が彼に命
じた言葉一つ残さず彼らに語
り聞かせた」
1866年刊行 リトグラフ

■主なイベント

日程	内容	出演者など
7月16日(日) 11:00～12:00	講演会「愛と祈りの画家シャガール」 観覧無料	深谷克典(名古屋市美術館副館長)
7月23日(日) 14:00～15:00	トークセッション 「シャガールと本田宗一郎」観覧無料	HONDA社員と島瀬美術センター職員
7月29日(土) 16:00～17:00	ミュージアム・コンサート「奏でる愛、 奏でる祈り」観覧無料	森崎ちよ & 松尾ゆうこグループ
7月30日(日) 14:00～15:00	トークショー「愛のシャガール」 観覧無料	神田さゆり(恋愛コンサルタント)
8月6日(日) 14:00～15:00	ミュージアム・コンサート「奏でる愛、 奏でる祈り」観覧無料	みなみ 水上裕子(ピアニスト)

◎その他のイベントや詳細はホームページをご覧ください。

◎内容は予告なく変更する場合があります。

問い合わせ 島瀬美術センター ☎ 22-7213